

図書館と私

平河茉璃絵 助教

(ミクロ経済学)

図書館を利用する目的は、勉強のため、雑誌や新聞の最新号を読むため、時間つぶしに寝るため……など、人それぞれである。私も図書館を利用するが、その目的は主に調べものをするためである。初めて自主的に図書館を利用したのは、小学生の頃だ。

小学生の頃、国語や算数といった5科目の授業の他に、「総合的な学習」というものがあった。「総合的な学習」とは私の母校の場合、先生があらかじめ「世界の国々」「食べ物」等の大まかなテーマを決め、生徒達はそれに沿って自分の興味があるテーマを設定した上で調べ学習を行い、その成果をまとめて発表する、という時間であった。当時、私の家にはパソコンが導入されていなかったため、調べものをするには近所の図書館へ行き、資料を集める必要があった。当時は今ほどパソコンが普及しておらず、パソコンがない家庭も珍しくなかった。そのため、先生から「来週は発表資料作りをするので、そのための資料を持ってきてください」と言われた日には大変である。決まって私と同じような境遇の子どもたちが図書館に殺到し、本の争奪戦が発生した。蔵書検索で目当ての本を見つけても大抵は「貸出中」と表示された。しかし、ここで諦めては授業中に手持無沙汰となり、じっと自分の手を見つめたり、そわそわと周りの作業を見ながら45分間を過ごすはめになってしまう。そのため、司書さんに「〇〇というテーマの本はないか」と尋ね、場合によっては閉架の本を借りて、何とか資料を手に入れて授業に臨むことが常であった。当時は毎度冷や冷やししながら資料探しをしていたが、今となっては良い思い出だし、この経験が今に生きていると思う。

大学生になる頃には自分のノートパソコンを持つようになり、情報収集には困らなくなった。しかし、それでも図書館を利用することが多かった。ただし、大学生以降は近所の図書館ではなく、大学図書館を主に利用した。

大学生になるとゼミや勉強会で輪読することが多くなった。輪読している教科書の自分の担当箇所で見えない部分があると、まずネットで調べてみる。しかし、自分がわからないと感じているところを明快に説明しているものはあまりない。あったとしても「この説明は違うのではないか？」と感じることも少なくなかった。このような時は、決まって大学図書館へ行き、何冊か関連書籍を調べた。そうすると、何だかあやふやだった部分が

解消し、しっかりとした理解に変わる。特に英語で書かれた教科書を輪読する際は、大学図書館のお世話になることが多かった。

大学図書館には専門分野に関連した膨大な蔵書がある。例えばミクロ経済学の教科書だけでも何冊も蔵書があるため、授業でわからないことがあったときやゼミで何か報告が必要なとき、関連書籍を何冊か読むことで理解が深まり、質の高いノートや報告資料を作成することができる。大学生が専門分野の学習や調査研究をすることに関して、大学図書館ほど適した施設はないだろう。

近頃はパソコンだけでなくスマートフォンやタブレット端末が普及し、誰もが簡単に情報へアクセスできるようになった。インターネットは手軽で便利だが、物事のより深い理解のためには本から情報を得ることも大事である。学生の皆さんも、授業で困ったときやゼミで報告が必要なときには、ぜひ図書館を利用されてはいかがだろうか。自分の手で膨大な蔵書の中からいくつか本を選び出し、それらに目を通すのは大変なことに感じられるかもしれないが、その体験は必ずや今後生きるはずである。

筆者紹介

平河 茉璃絵 (ヒラカワ マリエ)

千葉県生まれ。2022年より日本大学経済学部に着任しました。女性就労に関する分野に関心があり、これまでは保育と女性就労に関して研究を行ってきました。